

植木郁子先生 : Diabetes Care (2010)33:951-957

“GLP-1+チアゾリジン on メトフォルミンはドリームチームか？”

Effects of Exenatide Plus Rosiglitazone on β -cell Function and Insulin Sensitivity in Subjects with Type 2 Diabetes on Metformin

【背景】本邦の糖尿病の領域では、現在最も注目されている GLP-1 受容体作動薬。今後、複数の薬剤の併用療法が考えられますが、今回は、ビッグアノイド薬で十分でない 2 型糖尿病患者への GLP-1 薬単独追加、チアゾリジン薬単独追加、および両者併用追加が比較検討されました。

【方法】メトフォルミン服用中の平均 HbA1c7.8%の 73 名の 2 型糖尿病患者さんに対し、GLP-1 受容体作動薬; Exenatide (EXE)、チアゾリジン薬 Rosiglitazone(ROSI)、両者併用 (EXE+ROSI) による 20 週後の耐糖能、インスリン分泌能、インスリン感受性が評価されました。

【結果】EXE 群/EXE+ROSI 群/ROSI/群での HbA1c 低下は -0.9%/-1.3%/-1.0%であり、単独より併用がより低下していました。体重は、-2.8kg/-1.2kg/+1.5kg と ROSI 群で体重増加を認めました。インスリン分泌能は、第 1 相、2 相ともに、EXE 群/EXE+ROSI 群が ROSI/群に比して有意な増加を認め、インスリン感受性では、EXE+ROSI 群が EXE 群より有意に改善していました。また Disposal rate(インスリン感受性と分泌能の積)では EXE+ROSI 群が最も優れていました。

【結論】本研究の結果だけを見ると、GLP-1+チアゾリジン on メトフォルミンは、体重減少効果を保ったまま(低血糖もなく)、インスリン分泌能、感受性を改善する、夢の治療の組み合わせのようです。2 型糖尿病治療のパラダイムシフトが現実味をおびてきました。(文責 阿比留)